法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-12-13

司法省民刑第二〇八号

(発行年 / Year)
1910

司法省伺第二〇八號

貴議院送付民法第二百七十八條修正ノ請願書内閣ヨリ轉送相成候間為御參考別紙寫貳通及回送候也

明治三十三年二月二十日

司法大臣 清浦奎吾 印

法典調査會總裁侯爵山縣有朋殿

内閣

民法第二百七十八條修正ノ儀請願

明治二十九年法律第八十九號民法第二編第五章第二百七十八條ヲ左ノ永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス若シ五十年ヨリ長キ期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

ト即現定相成候處右御制定ノ理由ハ若シ永小作權ヲ永久無期ナラシムルトキハ事實上小作人ニ殆ント土地ノ所有權ヲ與フルニ等シク隨テ外國人ニ土地所有權ヲ許與セストノ締盟條約ノ精神ニ背反スル結果ヲ生スルニ至ルヘシトノ御主旨ニ有之候趣然ルニ當郡伏見屋新田全外新田ノ如キハ別紙理由書ニ詳述セル如ク特殊ノ理由ニ依リテ小作權ヲ得而シテ因襲ノ久シキ終ニ古来ヨリノ慣習トナリシコトハ當年ノ判決例ニ徴スルモ明白ナル事實ニ有之然ルヲ今一朝ニシテ此ノ慣習ヲ打破シ永小作權ノ存續期間ヲ二十年以上五十年以下ト制限セラルルトキハ之ヲ箇人ノ上ヨリスレハ既得權ヲ侵害セラシ唯一ノ農業資本ヲ奪去ラルルニ等シク之ヲ國家ノ上ヨリスレハ其土地ノ保護改良ノ念ヲ薄カラシメ漸ヲ追テ農事ノ改良發達ヲ阻礙スルニ至ルヘクト存候間何卒特

法曹雜誌會

別ノ所詮議ヲ以テ民法第二百七十八條中ハ
本條ノ規定ニ異リタル慣習アル モノハ日
本臣民ニ限リ特ニ其慣習ニ從フ
トノ除外例ヲ追加セラレ以テ既得ノ權利ヲ
侵害セサル様御修正被成下度別紙理由書相
添此段奉請願候也

明治三十二年　月　日

愛知縣三河國碧海郡舊塚村
四百九十二番戸平民農
林ハ太郎外四百四名

別紙理由書

本郡伏見屋新田今外新田ハ今ヲ距ル二百三十餘年前即チ寛文六年中山城國紀伊郡伏見ノ米穀商伏見屋事三宅又兵衛ナル者三河國地方ニ往復シテ商業ヲ營ミ居リシカ偶々三河國碧海郡矢作川近傍海邊ニ於テ潮水淺ノ開墾ヲ為スニ最モ適當ナル地所アルヲ発見シ凡ソ百七十餘町歩ノ田畑ヲ新開スヘキ場所ヲ選定シテ潮除堤防ヲ築キ近傍小作人ヲ奬勵シ田畑ト為サシムルニ大種ノ區別ヲ立テ其勞ニ依テ遂ニ開墾ノ目的ヲ達シ三宅又兵衛ノ家號ヲ該開墾地ノ總称ト為シ伏見屋新田ト名ケ爾来正德元年迄四十五年間三宅又兵衛及其相續人ニ於テ之ヲ所有シ正德元年中片山甚五郎片山八左衛門加藤四

郎太衛門ノ三名ハ賣渡シ片山甚五郎外二名
ハ享保五年迄十ヶ年間所有シ更ニ之ヲ太四
郎兵藏ナル者ハ賣渡シ太四郎等ハ享保十年
迄六ヶ年間所有セシモ享保七年洪水ノ爲メ
潮除堤坊破壞シ以来両三年引續キ激浪甚シ
ク漸々堤防内ノ田畑ニ被害ヲ及ホスニ至リ
シモ太四郎等資力之ヲ復旧支持スルニ堪ヘ
サリシヲ以テ享保十年中之ヲ領主ハ上地セ
リ故ニ當時ノ御代官小林又左衛門ハ御勘定
所ヘ伺ノ上入札拂ニ付セラレタルニ三河國
碧海郡大濱村名主ナル田甚兵衛最高札ヲ以テ
拂下ヲ受ケ爾来寛延四年迄二十六年間之シ
ヲ所有シ寛延四年中市右七郎手倫頃藤次郎

法典調査會

ノ両名ハ賣渡シ此両名ハ或ハ數十年或ハ百
年餘之ヲ所有シ漸次現今ノ地主ハ賣渡シタ
ルモノニシテ間地以来宜ニ二百三十餘年ノ
久シキ厚々所有主ヲ轉轉移変シタルモ小作
ノ權利ハ我々ノ祖先ヨリ連綿トシテ常ニ絶
ユルコトナク其間厚々堤防破壞ノ爲メ田畑
ニ非常ノ損害ヲ被リ毫ニ收穫ヲ皆無ナラシ
ムルノミナラス往々土地ノ形跡ヲ失フニ至
リシモ小作人等自ラ奮テ費用ト勞力トヲ重
ネテ之ヲ原狀ニ復シ瘠地ヲ変シテ良田ト爲
スニ努メ来リシヲ以テ現ニ去ル明治十五年
中現今ノ所有者等カ小作人等ヲ相手取リ本
地ニ對シ掟米增加請求ノ訴訟ヲ提起シタル

場合ノ如キモ大審院ニ於テ明治十五年十月
廿七日（前裏）本訴ノ小作地タルヤ永年小作
ニシテ檀マニ撓米改正スルヲ得ヘカラス
云々（後裏）トノ判決ヲ與ヘラレシ以テ其既得
ノ權利タルヲ保証セラレタル如キ好箇ノ例
証モ有之候次第ニ付之等特種ノ事情ニ由リ
テ古来ヨリノ慣習ヲ馴致シタルモノハ又タ
特種ノ除外例ヲ規定セラルルノ當然ナルヘ
キヲ信シ乃チ本請願ヲ提出致シタル所以ニ
御座候也

法典調査會

民法第二百七十八條修正之儀請願

明治二十九年法律第八十九號民法第二編第五章第二百七十八條ヲ以テ

永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス若シ五十年ヨリ長キ期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

ト御規定相成候處右御制定ノ理由ハ若シ永小作權ヲ永久無期ナラシムルトキハ事實上小作人ニ殆ント土地ノ所有權ヲ與フルニ等シク隨テ外國人ニ土地所有權ヲ許與セストノ締盟條約ノ精神ニ背反スル結果ヲ生スルニ至ルヘシトノ御主旨ニ有之候趣然ルニ當郡前濱新田及ヒ平七新田ノ如キハ別紙理由書ニ詳述セル如ク特種ノ理由ニ依リテハ小作權ヲ得而シテ因襲ノ久シキ終ニ古來ヨリノ慣習トナリシコトハ當年ノ判決例ニ徵スルモ明白ナル事實ニ有之然ルヲ今一朝ニシテ此ノ慣習ヲ打破シ永小作權ノ存續期間ヲ二十年以上五十年以下ト制限セラルルトキハ之ヲ篤人ノ上ヨリスレハ既得權ヲ侵害セラレ唯一ノ農業資本ヲ奪去ラルルニ等シク之ヲ國家ノ上ヨリスレハ其土地ノ保護改良ノ念ヲ薄カラシメ漸ヲ追フテ農事ノ改良發達ヲ阻礙スルニ至ルヘケト存候間何卒特別ノ

法典調査會

御詮議ヲ以テ民法第二百七十八條中ヘ
本條ノ規定ニ異リタル慣習アルモノハ日
本臣民ニ限リ特ニ其慣習ニ從フ
トノ除外例ヲ追加セラレ以テ既得ノ権利ヲ
侵害セサル様御修正被成下度別紙理由書相
添此段奉請願候也

明治三十二年　月　日

愛知縣三河國碧海郡志貴崎村
七百九十七番戸
平民農
伊藤　吉平　㊞
外ノ四百八拾四名

別紙

理由書

本郡前濱新田及ヒ平七新田ハ文政十年中我
々小作人ノ祖先カ始メテ開墾シタルモノニ
シテ當時資金ヲ出シテ土工費等ニ充テタル
者ヲ以テ地主ト為シ勞力ヲ費シテ開墾ノ勞
ニ當リシ者ヲ以テ小作人ト為シ小作人ハ永
代小作權ヲ得ルト同時ニ恰カモ半ハ其土地
ノ所有權ヲ得タルニ等シキ習慣ヲ作リ以テ
今日マテ渝ルコトナキハ現ニ去ル明治十四
年中現所有者カ小作人ニ對シ抵額改正売渡
証券請求ノ訴訟ヲ提起シタル場合ノ如キ東
京上等裁判所ニ於テ明治十四年十二月五日

法典調査會

（前異）尋常ナル作者ト異ナルナシトスル証據ハ第一其一筆証書ニ散見スル土工費及ビ肥瓶ヲ地主ノ負金ヲ以テ之ヲ支拂ヒ之ヲ配當シタルモ原告即チ小作人等ニ於テ曾テ勞費ヲ分投シタル証跡ナク又開墾以来數回掟米ヲ增加シタルヲ以テ視ルモ原告ハ尋常小作者タル旬諭ナリ故ニ近郷ノ慣習小作賃貸ノ事ヲ執テ以テ永小作ノ証徴ト為スヲ得スト云ヘシタリ依テ之ヲ審按スルニ被告一号書中ノ出費ト從前掟額改正ノ事項ヲ以テ一概ニ原告ヲ指シテ普通ノ小作人ト異ルナシト謂フヲ得サルヘシ其所以ハ詮地ハ文政十年地概シ取懸リ麥蒔付タルトモ田方植付無之ハ該証初項ニ明記アリ左スレハ歳爾ヲ重ネ地味変換ノ度ニ隨ヒ田方畑方ノ取上ケヲ定ムルハ是新墾地ニ施スル順序ニシテ他ノヨリ熟田ヲ小作ニ卸シ付タルモノト差別アルハ當然ナリ原告ハ新墾荒地ヲ試作培養シ多年ノ内地味ノ熟度ニ應シ三年目五年目ニ入額ヲ增加シタルモ皆テ小作年季ヲ定メ置カサリシナリ之ヲ以テ視レハ其始メ開墾費ヲ分投シタル証跡ナシト雖モ小作人相當ノ義務ヲ盡シ然シテ竟ニ熟田ニ趣カシメタルハ小作人與フテカアルモノト為ササルヲ得ス（中略）夫レ原告一号以下ノ數通ハ小作權賃貸ノ証書ナラスヤ然シテ被告ハ此賃貸ヲ認メ

タリ即チ答書第三條ニ「小作ヲ賣買スルハ云々我近郷皆然リ」トアリ柳モ地主ニシテ小作権ヲ賣買シ又小作人等カ相互間ニ為ス讓受ヲ度外ニ措クカ如キ特別ノ事由アルニ非サレハ斯ノ如キ例外ノ自由ヲ得ヘキモノニアラス又（中略）左ノ理由ナルヲ以テ原告ヲ永小作ニアラストスル被告ノ旨意ハ相立タサル事トノ判決ヲ奚ヘラレ以ラ其既得ノ権利タルヲ信證セラレタル如キ好箇ノ例証モ有之候次第ニ付此等特殊ノ事情ニ由リテ古来ヨリノ慣習ヲ馳致シタルモノハ又タ特殊ノ除外例ヲ規定セラルルノ當然ナルヘキヲ信シ乃チ本請願ヲ提出シタル所以ニ御座候也

法典調査會